Karolinska Institutet – Tohoku University Meeting June 2023 に参加して

生体情報解析分野
准教授
河岡慎平

2023 年 6 月 7~8 日にカロリンスカ研究所―加齢医学研究所の第一回合同ミーティングに参加しました。カロリンスカ研究所はスウェーデンのストックホルムに位置し、ストックホルム・アーランダ空港からタクシーで 30 分~40 分程度の距離です。羽田空港からフィンランドのヘルシンキまで約 12 時間、そこからアーランダ空港までは 1 時間、仙台―羽田や待ち時間を合わせると 20 時間近い旅程でした。

ミーティングでは川島前所長の基調講演を拝聴するという貴重な機会に恵まれ、カロリンスカ研究所や関連研究機関から集まった先生がたから認知症や加齢に関する興味深い発表を聴くことができました。加齢や疾患についての日本とスウェーデン間の比較のお話もあり、これらの研究領域には「国」「人種」「社会環境」などのパラメータを考えることが重要なのではないかという印象を持ちました。

印象的だったのはカロリンスカ研究所全体がとてもインターナショナルであることです。参加されていた Dr. Kristian Jeppsson と話してみると、研究上の公用語は完全に英語であり、もはや母国語ではサイエンスを考えられないレベルで英語に馴染んでいるとのことでした（母国語で考えるとしっくりこないそうです)。大学教育まで全て無料、大学に入るとむしろお金がもらえるとのことで、話ぶりにもどこか余裕があり、教育の体制ひとつとっても国によってここまで違うのかと驚いた次第です。

加えて、今回のミーティングは、加齢研に所属されている先生がたのご研究を知る素晴らしい機会となりました。対面での議論はやはりダイナミックで発展的なものになりやすく、グループで遠征することによってコミュニケーションが深まることを実感しました。帰国後、建物内での立ち話の機会が増えたような気がします。

なお、ストックホルムは「魔女の宅急便」の主人公キキが訪れるコリコの町のモデルだそうです。旧市街地であるガムラスタン（カロリンスカ研究所から 30 分程度）は特にその趣が強く、脳内で BGM が鳴り止みませんでした。この辺りのことも含めて、コロナ禍において抑制されていた「異国の地で何かを感じる・学ぶ機会」が戻ってきたことを感じました。

最後に、本ミーティングへの参加をサポートいただいた田中先生・本橋先生、また、手続きをしてくださった今野様に感謝申し上げます。ありがとうございました。